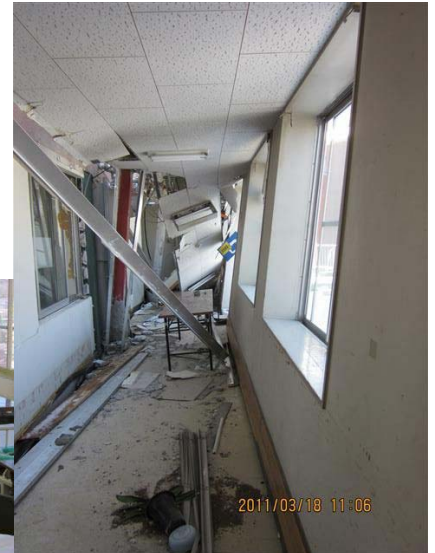


長町病院附属クリニック崩壊寸前！ 使える物資の運び出し 東都協議会支援チーム

右の写真は、長町病院附属クリニック（仙台市太白区）の5F廊下です。写真の左側の壁が垂直なのです。

つまり、反対側の壁が外側に約10度傾いていて、大きな余震があれば崩壊するでしょう。そのため、長町クリニックは消防本部から立ち入り禁止命令が出されました。右の写真は、その危険を冒して長町クリニックからまだ使えそうなベッドや衝立を協議会から派遣された事務職員が運び出し、道路の目の前にある無事だった長町病院の大会議室を改造し、急遽病棟を作り、多くの救急患者を受け入れました。（東都協議会支援対策本部 NEWS 3/21 より）



坂総合病院の支援ひきつづき 東京民医連現地支援隊第3陣現地報告

19日には坂病院からの避難所訪問である避難所であらたに3人のインフルエンザ患者が確認され、隔離と他の入所者の方への拡大防止のための援助がメンバーからおこなわれました。

避難所は多くのところでまだ2食しか食料支給がなく、トイレなども衛生環境が悪く、水もないため手洗いなど被災した方の健康が心配です。まだまだ多くの医療支援が必要とされています。

坂総合病院は救急患者受入れと入院医療確保、避難所医療支援、さらに全国から届いた支援物資を行政と連携して避難所へ届けるという役割を果たしています。避難所訪問は塩釜市と多賀城市の避難所を1日に十数か所、数チームで分担して訪問します。避難所から直接要請を受けて訪問しているところもあります。ガソリンも厳しい中、遠方へは車で移動しています。

病院としては被災者支援を拡大しながら、病院は通常診療体制に戻していきたいと考えていますが、救援物資や支援者受け入れ場所の移動も必要です。3/20夕方の日本テレビ「バンキシャ」で坂病院の大奮闘が放送されました。（3/21：北村副事務局長より）



処方せん日数を減らして薬剤を被災地へ 北多摩クリニック

北多摩クリニックでは処方日数を減らす対応を通じて、被災地支援の取り組みに参加しています。

例えば一回の薬剤処方を通常30日処方するところを21日にするなど、処方箋日数を少なくすることで少しでも被災地へ優先的に薬が供給されるようにしようという取り組みです。

この間の燃料不足や都内の物流が滞っていることを見てもわかるように、米などと同じようにいっぺんに購入すると突然目の前からなくなってしまう可能性もあり、被災地優先で供給してもらうために私たちにできることで協力したいと思い、患者にも説明すると「2週間でもいいよ」と言ってくださるなど、皆納得してくれます。

診療所レベルでは患者の事情に配慮しつつ、このような取り組みを広げられるのではないかと考えています。

（北多摩クリニック 保坂）